

地域の特性を活かした 中学校武道必修化の取組

美作市教育委員会学校教育課

岡山県美作市は、県北東部に位置し、鳥取県及び兵庫県と隣接している。平成17年に5町1村の合併により発足し、昨年、市制10周年を迎えた。古くから交通の要所として出雲街道や因幡街道の宿場町としても栄え、現在もその名残を残している。市北東部には宮本武蔵生誕伝承地、市中央部には湯郷温泉、市南部には国の重要文化財長福寺三重塔などを有し、観光名所としても知られている。また、サッカーなどしりり「岡山湯郷ベル」の本拠地としてスポーツ振興にも力を注いでいる。



「武蔵の里五輪坊」敷地内に建つ「青年期宮本武蔵像」

1 はじめに

本市には5つの中学校があり、718名が在籍しており、4校で剣道1校で相撲が実施されている。指導体制の面では、平成26年度において9名の保健体育科教員のうち武道経験者は1名であり、恵まれた環境にあるとはいえない。

が、県教育委員会主催の中学校武道安全管理講習会に参加し、指導の充実を図っている。今回は、地域の特性を活かした授業を進めている大原中学校の実践を紹介する。

流を取り入れたいと考えた。幸い、本校では武道が必修となる以前から選択科目として実践していた。そのため、大小の木刀の数がそろっていた。また、地域に二天一流の指導者がおられ、二天一流の実践を通して、日本の伝統を知り、さらに地域に興味や関心をもち、地域との交流にもつながると考えた。

外部指導者活用に いたった経緯

二天一流は、竹刀を用いた剣道や木刀を用いた日本剣道形とも、構え、歩き方から似て非なるものである。

二天一流を授業に導入する際に、本校の保健体育科教員および剣道部顧問も二天一流の経験者はいなかった。そのため、地域にある武蔵道場にて学生から成人まで幅広い年齢層を対象に、二天一流の稽古を指導している元小学校校長の方に、外部指導者としてお願いすることにした。

教員の役割と 外部指導者の役割

教員自身が初めて体験する種目であったため、外部指導者に前面に出ていただき、保健体育科教員は、授業の始まりの目標設定と終わりの反省、内容理解の不十分な生徒への個別支援、安全への配慮を行った。

2 外部指導員の活用例 二天一流

岡山県 美作市立大原中学校 刀の鏢「海鼠透鏢」（なまこすかしつば）をイメージした外観の武蔵武道館は、剣道だけにとどまらず、空手道や少林寺拳法、合気道などの大会や合宿等が行われ、県内外からの多くの方が訪れている。

大原は、宮本武蔵生誕の地であり、宮本武蔵のゆかりの場所や、武蔵武道館、武蔵道場、五輪坊、宮本武蔵駅など宮本武蔵にちなんだ施設が多い。

中でも、武蔵が作ったとされるこのような地域的特色を生かして、武道授業に宮本武蔵の二天一



武蔵が作ったとされる刀の鏢「海鼠透鏢」（なまこすかしつば）をイメージした外観の武蔵武道館



二天一流の授業の様子

また、授業実践の数週間前から道場での稽古に参加して実技を学び、所作や木刀の持ち方、模範演武など可能な限りの実技指導も行った。授業は、2年生を対象（男女共修）に行われた。

指導の概要

全体の指導計画

指導計画の作成にあたり、外部指導者と事前の準備、授業案の検討、事後の検証等を行った。また、保健体育科教員が地域で開かれている稽古にも参加して直接指導を受け、意思の疎通を図るよう努力した。

指導の注意点

剣道部員の生徒以外は、1年生2学期の授業で剣道を行って以来の武道となるため、所作や心構えについて、外部指導者より、宮本武蔵の「五輪書」の内容に触れながら説明していただいた。

指導内容は、打太刀と仕太刀に分かれて行う「形」を中心に行なった。基本動作を踏まえた一連の動きができ、二人一組による気剣体一致を意識した打突ができるようになることを目標とした。

指導の実際

指導時間は全10時間とし、二天一流の歴史や心構え、礼法、所作、構え、素振り、一刀の形、二刀の形を指導することとした。

用具の木刀は、事前の準備から外部指導者にご協力いただき、1人1本ずつ使用して学習することができた。生徒の能力に応じて短めの木刀を渡すなどの配慮をした。また、形は、直接面を打つので、慣れるまでは遠い間合いで練習し、徐々に間合いを近づけていった。

授業前半は一斉指導による基本動作の習得を中心に学習した。授業後半では、ペアでの学習、グループでの学習も取り入れていった。外部指導者の卓越した指導力

により、生徒は二天一流の特性に触れながら興味、関心をもって積極的に形の流れや打突をすることができた。

授業が進むにつれて木刀の振りが安定して行えるようになり、さらに間合いが近づくことにより、授業に対する意欲も増して

「五輪書」をもとに学習の心構えを説明する外部指導者



模範演武をする外部指導者



るのが感じられた。また、外部指導者が二天一流を通して、形の習得だけでなく、望ましい人間像や今後の生活にどのように生かしていくかを説いてくださったことが、生徒にとって大変有意義であった。

外部指導員活用における課題とその対策

保健体育科教員の知識や実技のレベルがまだまだ未熟なため、稽古にも参加したが、取り組めば取り組むほど奥が深いものだと感じた。そのため全体計画や指導上の役割について、外部指導者と綿密な打ち合わせを行った。

評価については、二天一流の専門的な知識が不足している保健体育科教員が行うため、評価規準作成の段階から慎重に行っていく必要があった。

来年度以降、外部指導員活用の授業実践をより有意義なものにするためには、保健体育科教員のさらなる指導力向上と、外部指導員の継続的な活用により、二天一流が伝統的に取り組まれていくことが大切だと感じた。

1. 単元の目標

技ができる楽しみや喜びを味わい、基本動作や基本となる技を習得する。

- (1)二天一流に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方や礼法を守り、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (2)木刀の扱いを身体のさばき方とともに学び、相手の関係の中で技が使えるようにする。
- (3)二天一流の特性、伝統的な考え方、技の名称、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を考え、判断して行動できるようにする。

兵法二天一流 太刀勢法

◎指先(さっせん)

打 八相 右足から3歩目、機を見て 正面を打つ(カー)

仕 下段 右足から3歩目、体を右にかわして 喉のどを突く
(ト一)

◎八相左(はっそうひだり)

打 八相 右足から3歩目、機を見て 正面を打つ(カー)

仕 八相 右足から3歩目、体を右にかわして
打太刀の左袈裟ひだりけさを斬る(ト一)

◎受流左(うけながしひだり)

打 八相 右足から3歩目、機を見て 正面を打つ(カー)
受け流されたので右足を引き八相に構える
左足を右足に引付け体勢を整える

仕 下段 左足から3歩目、左足を右足の前に出し左に受け流し、ただちに、右足を踏み出し、
面または小手を打つ(ト一)左足を引付け体勢を整える

一刀の形の解説。これをもとに、外部指導者が説明を加えながら生徒たちを指導する

時間や生徒の実態から、今回は一刀の形を中心に行った。生徒からは、二刀の形について、もっと学びたかったという意見や、学んだことを今後の生活に生かしていきたいという感想が多くみられた。

二天一流の授業を通して、地域にゆかりのある宮本武蔵について興味や関心を持つことができ、地域とのつながりを深める上で成果があった。

今後、より深く学んでいくために、対象となる学年を増やしたり、演武を行う場をもうけたりして、地域とのつながりや伝統を守る態度の育成を図っていきたい。

3 まとめ

2. 評価規準

関心・意欲・態度	二天一流の仕方を理解し、相手を尊重した態度で行うことができる。 礼儀作法を正しく理解し、自律的な態度をとることができる。 用具や練習場所など環境の安全を確かめ、練習においても自他の安全に配慮することができる。
思考・判断	相手との関係の中で、伝統的な考え方を理解して形の練習に取り組むことができる。 仲間と協力して、技を教えあいながら取り組むことができる。
技能	伝統的な行動の仕方や礼法を学び、正しい姿勢、歩き方、構えなどの所作ができる。 基本動作を正しく理解し、気剣体一致の技を身につけることができる。
知識・理解	二天一流の特性や伝統に触れ、地域の伝統文化について考えることができる。 二天一流の礼法について理解することができる。

3. 兵法二天一流 指導計画(実施)

1時間目	模範演武(太刀勢法・切差・五法勢法)、所作、歩行(つま先上がり)、木刀の持ち方、素振り
2時間目	構え(中段・八相・下段・胸構え・脇構え)、太刀勢法 指先
3時間目	木刀の持ち方、太刀勢法 八相左
4時間目	素振り、太刀勢法 受流左
5時間目	素振り、おさらい 指先 八相左 受流左
6時間目	構え 二刀 中段 下段、素振り 二刀 一刀(下段から)
7時間目	二刀合口 切差打留
8時間目	太刀勢法練習 指先、八相左、受流左 *グループで練習
9時間目	太刀勢法 *ペアで練習
10時間目	発表会、反省